

# 取扱説明書

## エンジン手押し式除雪機

HG-K8718

燃料

無鉛レギュラーガソリン



エンジンオイルは  
入っていません。

★ご使用前に、必ず取扱説明書をお読みにになり、内容を理解してからご使用ください。



TOP .....	1
表紙 .....	1
はじめに .....	4
安全上のご注意 .....	4
製品をご愛顧いただくために .....	5
安全にお使いいただくために .....	6
主要諸元 .....	8
各部の名称 .....	10
梱包部品一覧 .....	11
組立て .....	12
組立て .....	12
ハンドルの取付け .....	13
除雪クラッチワイヤの取付け .....	14
シュータの取付け .....	15
リコイルスターターガイドの取付け .....	18
リコイルスターター .....	19
シュータデフレクタ .....	20
シュータハンドル .....	21
除雪クラッチレバー .....	22
各部の取扱い .....	23
緊急停止キー(セーフティーキー) .....	23
チョークレバー .....	24
燃料ポンプ .....	25
雪かき棒 .....	26
運転前の点検 .....	27
運転前の点検 .....	27
エンジンオイルの給油 .....	28
燃料の給油 .....	30
ラバーオーガ、バッフルの点検 .....	31
除雪クラッチレバーの点検 .....	32
シュータの点検 .....	34
各部の緩みやガタツキの点検 .....	35
各部の異音の点検 .....	36
排気状態の点検 .....	37
グリス・潤滑油の塗布 .....	38
運転操作の仕方 .....	39
運転操作の仕方 .....	39
エンジンのかけ方 .....	40
エンジンの止め方 .....	43
除雪作業の仕方 .....	44
除雪作業の停止 .....	46
シュータに雪が詰まった場合 .....	47
移動の仕方 .....	48
点検・整備の仕方 .....	49
点検・整備の仕方 .....	49
エンジンオイルの点検・交換 .....	51
燃料の抜取り .....	53
点火プラグの点検・整備 .....	54
オーガベルトの交換 .....	56
除雪クラッチワイヤの交換 .....	57
除雪クラッチワイヤの調整 .....	59
バッフルの点検・交換 .....	61
ラバーオーガの点検・交換 .....	62
各部の緩みやガタツキの点検 .....	63
各部の異音の点検 .....	64
排気状態の点検 .....	65

グリス・潤滑油の塗布 .....	66
長期間使用しない時 .....	67
困った時の対処法 .....	68
消耗品・部品一覧 .....	69
保証内容について .....	70
お客様ご相談窓口 .....	71
修理協力店 .....	73
カスタマー・サポート .....	74

## はじめに

このたびはお買い上げいただき誠にありがとうございます。

安全に正しくお使いいただくために、ご使用前にこの取扱説明書を必ずお読みください。

**誤った使い方をされますと重大な事故につながる恐れがあります。この取扱説明書を熟読しご理解してからご使用ください。また、各ページの警告・注意事項も飛ばさず、必ずお読みください。**

### 安全上のご注意

※お使いになる人や他人への危害・財産への損害を未然に防ぐため、必ずお守りいただくことを説明しています。

- 表示と意味をよく理解してから、本文をお読みください。
- お読みになった後は、お使いになる方がいつでも見ることができる所に、必ず保管してください。
- すべて安全に関する内容です、必ずお守りください。

■表示内容を無視して、誤った使い方をしたときにおよぼす危害や損害の程度を次の表示で区分し、説明しています。



**警告**

この表示の欄は、「**死亡または重症を負う恐れがある**」内容です。



**注意**

この表示の欄は、「**軽症、物的損害、故障が生じる恐れがある**」内容です。

■お守りいただく内容の種類を次の絵表示で区分し、説明しています。



**禁止**

このような絵表示は、してはいけない「**禁止**」内容です。



**強制**

このような絵表示は、必ず実行していただく「**強制**」内容です。

### 製品を長くご愛顧いただくために

取扱説明書に従った正しい取扱や定期点検、保守を行ってください。注意事項に従わず何らかの損害・故障が発生した場合、保証の対象外となりますのでご注意ください。

## 安全にお使いいただくために

誤った使い方をされますと重大な事故につながる恐れがあります。下記を熟読しご理解してからご使用ください。また、各ページの警告・注意事項も飛ばさず、必ずお読みください。

### 除雪機に係る安全事項



警告



禁止

- ・本機は、除雪をする機械です。指定された用途以外には使用しないでください。
- ・燃料の臭いがする場合、運転をしないでください。爆発の危険があります。
- ・しめきった室内や換気の悪い場所ではエンジンをかけないでください。
- ・エンジンの排気ガスには人体に有毒な成分が含まれています。特に一酸化炭素は無色無臭で非常に強い毒性があり、吸入すると死亡の恐れがあります。
- ・エンジンが熱いうちは、給油しないでください。
- ・燃料が漏れたり、こぼれたままエンジンをかけないでください。
- ・運転時、給油時、喫煙など火気を発生させないでください。
- ・改造、分解は絶対に行わないでください。安全性・信頼性が低下したり故障の原因になります。また、弊社の保証サービスは一切受けられなくなります。
- ・正しい操作を知らない人、子供、妊娠中の方には操作をさせないでください。
- ・未成年者の単独使用は禁止です。監督下で作業してください。
- ・成年者でも、操作の仕方がよく分からない場合は、独自の使用をしないでください。
- ・運転中に回転部及び可動部に手や足及び衣類を絶対に近づけないでください。触れると巻き込まれ重大な事故の恐れがあります。
- ・運転中は絶対シュータやオーガハウジングを覗き込まないでください。
- ・点火源となるような機器の近くに保管しないでください。燃料蒸気へ引火する恐れがあります。
- ・デッドマンクラッチを紐などで固定しないでください。



強制

- ・周囲の動植物等に排気ガスが当たらないように注意をしてください。
- ・給油時は、付近にタバコ等の火気が無いことを確認してください。燃料は非常に引火しやすく、気化した燃料は爆発の危険があります。
- ・給油時、燃料タンクの給油限界位置を超えないようにしてください。温度上昇によって燃料が膨張し、漏れることがあります。
- ・給油は、身体に帯電した静電気を除去してから行ってください。引火の恐れがあります。
- ・給油中にこぼれた燃料はきれいに拭きとってください。燃料を拭いた布等は、火災を防ぐため適切に処分してください。
- ・燃料を衣服にこぼした場合、直ちに衣服を着替えてください。衣服へ引火する危険があります。
- ・燃料タンクキャップは確実に閉めてください。運転中にこぼれると火災の恐れがあります。
- ・始動前点検を実施してください。
- ・本機をご使用になる前に、エンジンの始動、停止の仕方を覚えてください。
- ・可動部分の位置及び締付け状態、部品の破損、取付け状態、その他動作に影響を及ぼす全ての箇所に異常がないか確認してください。
- ・運転前に燃料漏れがないか点検・確認してください。
- ・エンジンを始動するときは、周囲に人や動物がないことを確認してください。
- ・クラッチレバーを握っていないときは、オーガが回転していないことを確認してください。
- ・エンジン回転中及び停止後しばらくの間はエンジンやマフラーなどが熱くなっています。触れるとやけどをすることがありますので注意してください。
- ・使用中に異常音、異常振動があったときは、直ちに使用を中止し、点検、修理を行ってください。
- ・回転しているオーガに接触すると負傷または死亡する恐れがあります。
- ・点検整備を行なう場合はエンジンを停止してください。エンジンが不意に始動すると、思わぬ事故につながる恐れがあります。
- ・点検整備はエンジンが冷えてから行ってください。エンジン本体やマフラー部のほか点火プラグの温度も高くなっており、やけどの恐れがあります。
- ・破損した部品交換や修理は、取扱説明書の指示に従ってください。取扱説明書に指示されていない場合は、お買い求めの販売店に修理を依頼してください。
- ・修理の知識や技術のない方が修理しますと、十分な性能を発揮しないだけでなく、事故・怪我の原因になることがあります。
- ・自動車で運搬するときは、燃料タンクの燃料を抜き、燃料コックを閉じてください。振動等により燃料が漏れることがあります。
- ・長期保管する場合は、燃料タンクの燃料を抜き、火気のないところに保管してください。
- ・子供の手の届かない安全な場所に保管してください。
- ・ご使用前にこの説明書をお読みになり取扱いの注意事項をよくご理解の上ご使用ください。



注意



禁止

- ・古い燃料は使用しないでください。
- ・安全保護装置であるガード及びカバーを取外して運転をしないでください。



強制

- ・燃料は無鉛レギュラーガソリンを使用してください。
- ・定期的にエンジンオイルを交換してください。
- ・給油中、燃料タンク内に雪や水が入らないように注意してください。
- ・使用中に異常音、異常振動があったときは、直ちに使用を中止し、点検、修理を行ってください。
- ・シートカバーなどは機械が十分冷めてからかけてください。
- ・部品交換は、純正部品を使用してください。
- ・定期点検整備を行ってください。

## 除雪機の作業に係る安全事項



警告

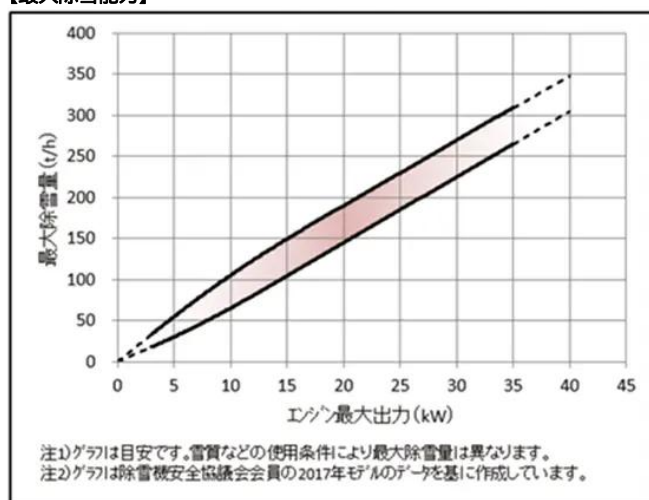
<p> 禁止</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 身体の調子が悪い時や、判断力に影響するような酒類、薬物を服用しているときは、使用しないでください。</li> <li>• 夜間、悪天候時、霧の発生時など、視界が良くないときは使用しないでください。</li> <li>• 運転中に高圧コードや点火プラグキャップに触れないでください。感電する恐れがあります。</li> <li>• ご使用時は、使用者から15m以内は危険です。人やペットが入らないようにしてください。</li> <li>• 運転区域には、全ての人、幼児、子供、ペット等を入れないでください。</li> <li>• 人にシュータやシュータデフレクタを向けないでください。また、除雪機の前方に人を入れないでください。</li> <li>• 足元が滑りやすい、転倒しやすい場所では使用しないでください。</li> <li>• 砂利道は石が飛び出すなど危険です。除雪しないでください。</li> <li>• 雪の中に石が混入していると遠くまで飛びますので十分注意してください。</li> <li>• オーガ、シュータ、顔、手足、衣服などに近づけないでください。</li> <li>• 傾斜面を横切って除雪しないでください。</li> <li>• 坂道での除雪や停車はしないでください。</li> <li>• 燃料タンク内に燃料を入れたまま運搬、保管しないでください。</li> <li>• 可動部分に絡まるような衣服、装飾品、タオルなどは着用しないでください。</li> <li>• エンジンがかかっている状態で本機から離れないでください。</li> <li>• 走るときの操作はしないでください。</li> <li>• 滑りやすい表面上では、高速で除雪機を運転しないでください。</li> </ul>
<p> 強制</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 雪が降る前に運転区域内の木片、缶、ホース、線材、ロープ及びその他の異物等をすべて除去してください。</li> <li>• ハンドルをしっかりと握り、正しい姿勢で作業をしてください。</li> <li>• 運転中は、排気ガスに十分注意してください。</li> <li>• 建物、自動車及び破損の恐れがある建造物の周囲で除雪をするときは、それらの方向に排出された雪が当たらないようシュータの方向、シュータデフレクタの角度を調整して運転をしてください。</li> <li>• 停止中でも、オーガに触れないでください。怪我をする恐れがあります。</li> <li>• 適切な間隔で休憩をとってください。</li> <li>• 万一に備え、救急箱、タオル、外部連絡用電話を用意してください。</li> <li>• 本機から離れるときは、必ずエンジンを停止してください。</li> <li>• 移動するときは、オーガの回転を止めてください。</li> <li>• 危険を感じたり、予測される場合も、必ずエンジンをすぐに停止してください。</li> <li>• 除雪部に異物が突き当たったり、巻きついた場合には、速やかにエンジンを停止し、回転部が完全に停止してから異物を除去し、除雪機が損傷していないかを調べてください。損傷があった場合には、完全に補修した後でなければ除雪機を再始動しないでください。</li> <li>• オーガハウジングやシュータなどに詰まった雪を取除くときは、エンジンを停止し、誤ってエンジンがかからないようにしたうえで、回転が完全に止まった後に、雪かき棒を使って取除いてください。</li> <li>• 滑りにくい靴、手袋、保護メガネ、保護帽などの作業に適した服装を心掛けてください。</li> <li>• 坂道の走行には注意してください。</li> <li>• 後方へ走行するときは、足元及び背後の障害物に十分注意し、転倒したり障害物に挟まれないように運転してください。</li> <li>• 除雪時は操作に集中し、特にバック時は、滑らないよう足元にご注意ください。</li> <li>• 除雪機を輸送したり、使用しない時、停止するときは、オーガハウジングを接地させてください。</li> </ul>

## 主要諸元

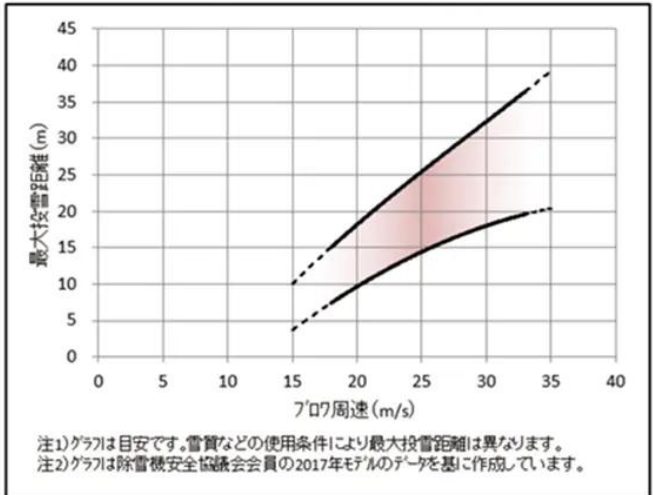
モデル名	HG-K8718
除雪幅	460mm
除雪高	270mm
ブロウ周速	30m/s
投雪方向	190°
投雪距離	最大8m
走行	手押し
エンジン型式	Loncin LC154F-1
馬力	2.2PS
総排気量	87cm <sup>3</sup>
エンジン出力	2.0kW
始動方法	リコイルスターター
シュータ状態	手動ハンドル（シュータ）
操作ハンドル	両手除雪
使用燃料	無鉛レギュラーガソリン
燃費（1L当たり）	約90分
燃料タンク容量	1.6L
エンジンオイル	SAE 5W-30
エンジンオイル容量	0.35L
駆動タイヤ	プラスチックタイヤ
重量	26kg
サイズ（幅×奥行×高さ）	470×960×980mm（ハンドルレバーまでの高さ）

◎弊社は、顧客満足度100%を目指し、日々製品（部品やカラーも含め）の改良を行っています。  
そのため、予告なく仕様を変更する場合があります。  
また、取扱説明書に最新情報が反映されない場合があります。ぜひご理解・ご了承ください。

### 【最大除雪能力】



### 【最大投雪距離】



## 各部の名称

※写真はプロトタイプのため、本製品とは若干形状が異なります。



- ①上ハンドル
- ②除雪クラッチワイヤ
- ③燃料給油キャップ
- ④ロックングレバー
- ⑤下ハンドル
- ⑥タイヤ
- ⑦ベルトカバー
- ⑧ラバーオーガ
- ⑨オーガハウジング
- ⑩シュータ
- ⑪シュータデフレクタ
- ⑫シュータハンドル
- ⑬除雪クラッチレバー



- ①リコイルスターター
- ②チョークレバー
- ③燃料ポンプ
- ④緊急停止キー（セーフティーキー）
- ⑤マフラー
- ⑥ノブナット

# 梱包部品一覧

※写真はプロトタイプのため、本製品とは若干形状が異なります。

1. ユニットとすべてのアクセサリを慎重に箱から取出し、全てのユニット・アクセサリに不足・問題がないことを確認してください。
2. 製品を注意深く点検し、輸送中の損傷がないことを確認してください。万が一損傷が見受けられた場合は、運送会社に1週間以内に連絡をしてください。
3. 梱包材を慎重に検査し、使用する前に廃棄しないでください。不足している場合は、お手数ですが弊社までご連絡ください。



警告

不足しているものがある場合は、不足している部品を入手するまで使用しないでください。

A. 本体	B. シュータ
	
C. 工具★	D. シュータハンドル
	
E. プラグレンチ	F. 緊急停止キー（セーフティーキー）
	

★付属の工具は、簡易的なものです。市販のスパナ等をご用意いただくと作業効率が良くなります。

# 組立て

## 組立て



- 緊急停止キーを抜いてから、作業を行ってください。
- 作業中にエンジンを始動するようなことは絶対にやめてください。また周囲に子供や動物が近づかないよう配慮をお願いします。
- 組立後は、すべての部品が確実に取付けられていることを確認してください。



作業には工具を使用します。必ず用途やサイズの合ったものを使用し、自身や周囲の確認をしながら安全に作業を行ってください。

# 組立て

## ハンドルの取付け

★付属の工具は、簡易的なものです。市販のスパナ等をご用意いただくと作業効率が良くなります。

1

ロックingleバーを写真のように解除し、上ハンドルを起こします。



2

下ハンドルにあるピンに上ハンドルの穴を合わせます。穴は3カ所ありますので、ハンドル操作しやすい左右の穴位置にピンをはめ、ロックingleバーで固定します。



注意

左右の穴位置にピンをはめてからロックingleバーで固定してください。また、レバーの先端のみに力を加え固定しようとすると、レバーが折れることがありますので、レバー全体を押すようにしてください。

# 組立て

## 除雪クラッチワイヤの取付け

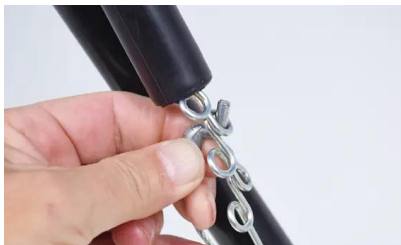
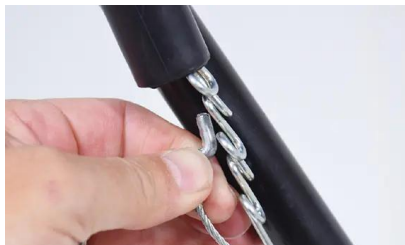
1

除雪クラッチレバーより出ている取付リングの一番下の穴に、ワイヤを引上げながらの先端のフックを通します。



2

ワイヤ先端のフックを下から4つ目、上から3つ目の穴に通します。



3

保護チューブを下げ、リング部分を保護します。



# 組立て

## シュータの取付け

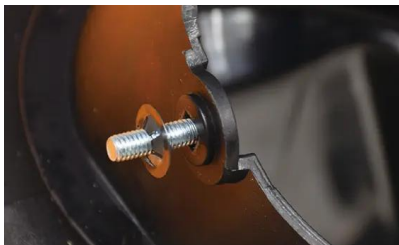
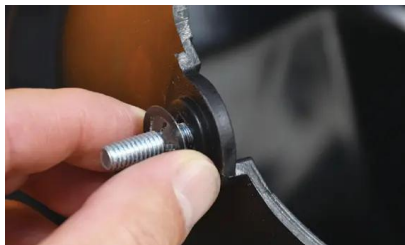
1

本体のシュータ取付部の3カ所のノブナットを一旦取外します。



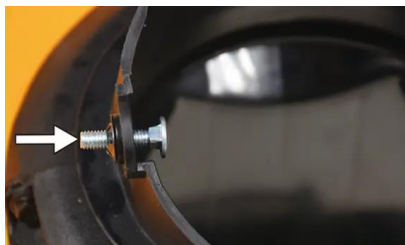
2

ワッシャを回しながら外側にずらしします。これを3カ所行います。



3

ボルトを内側に押込みます。



4

3カ所のボルトにシュータの取付穴を合わせ、はめ込みます。



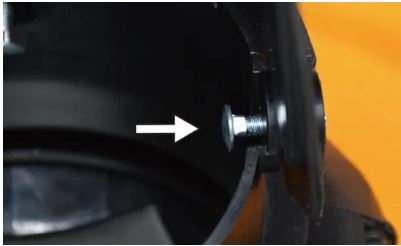
5

同じくシュータハンドルもはめ込みます。



**6**

3カ所のボルトを内側から外側に押込みます。



**7**

本体のシュータ取付部のボルト穴の内側は、四角い回り止めの切り欠きになっています。切り欠きに合わせてボルトを押込みます。



**8**

ノブナットを取付けて、締付けます。



**9**

シュータハンドルを回し、シュータが動くことを確認してください。



# 組立て

## リコイルスターターガイドの取付け

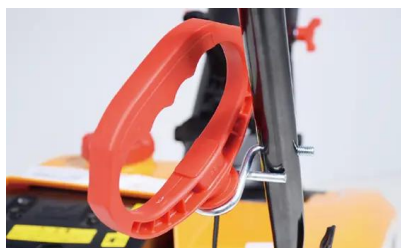
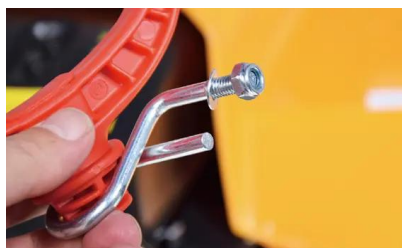
1

緊急停止キー（セーフティーキー）を抜き、リコイルスターターを引き出します。



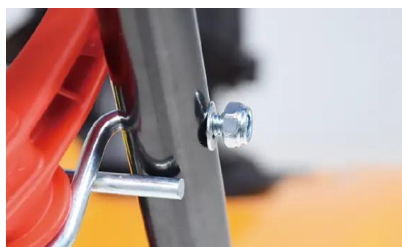
2

リコイルスターターガイドのナット、ワッシャを取外し、ハンドルの穴に挿込みます。



3

ワッシャ、ナットを取付け10mmのスパナで締付けます。



## 組立て

### リコイルスターター

リコイルスターターでエンジンを始動します。

1

リコイルスターターを少し重くなるまでゆっくり引き、そこから真っすぐ引張ります。エンジンがかかるまで、数回繰り返します。



- リコイルスターターロープを最後まで引出さないでください。
- 一度に6回以上は引張らないでください。
- 引いたリコイルスターターは途中で放さずに、ゆっくり戻してください。
- 運転中はリコイルスターターハンドルに手を触れないでください。

# 組立て

---

## シュータデフレクタ

1

シュータデフレクタのノブナットを緩め投雪角度を調整します。調整が終わったらノブナットを締めます。



## 組立て

---

### シュータハンドル

シュータハンドルを回すことで、投雪方向を190° の範囲で調整することができます。



## 組立て

### 除雪クラッチレバー

オーガを回転させる時に両手で握ります。



レバーを握る    オーガが回転します。

レバーを放す    オーガが停止します。



除雪クラッチレバー（デッドマンクラッチ機構）を紐やクランプ等で固定することは絶対にやめてください。  
重大な事故に繋がります。



## 各部の取扱い

---

### 緊急停止キー（セーフティーキー）

緊急時には「緊急停止キー（セーフティーキー）」を抜くことでエンジンを停止させることができます。  
「緊急停止キー（セーフティーキー）」を操縦者のベルトなどに紐で繋いでおくと、万が一の転倒などの際にキーが抜け、エンジンを停止させます。  
（運転操作の仕方「エンジンのかけ方」必ず行ってください！参照）



## 各部の取扱い

### チョークレバー

エンジンが冷えているときは、チョークマーク|↓|に合わせます。



エンジン始動後は、チョークマーク|↑|に戻してください。

## 各部の取扱い

### 燃料ポンプ

燃料ポンプを2~3回軽く抵抗を感じる程度まで押すことで、燃料をキャブレターに行きわたらせます。(初回のみ)



押しすぎるとエンジンが始動しません。

## 各部の取扱い

---

### 雪かき棒

オーガやシュータに詰まった雪や付着した雪を取除く時に使用します。



警告

回転部に詰まった雪や付着した雪を取除くときは、緊急停止キー（セーフティーキー）を少し引くか、引抜いてエンジンを切り、各部が完全に停止してから行ってください。

## 運転前の点検

### 運転前の点検



- エンジンが熱いうちは、給油しないでください。
- 燃料が漏れたり、こぼれたままエンジンをかけないでください。
- 運転時、給油時は喫煙など火気を発生させないでください。
- ハイオクガソリンは使用しないでください。



- 燃料を補給するときは必ずエンジンを停止して、屋外の換気の良い場所で行ってください。
- 燃料をこぼさないように注意してください。燃料タンクの所定のレベルを超えて補給しないでください。
- 燃料がこぼれた場合は、直ちに拭取ってください。
- 燃料は、無鉛レギュラーガソリンを使用してください。
- 燃料キャップは確実に締めてください。
- 長期保管する場合は、燃料タンクの燃料を抜き取り、火気のない所に保管してください。
- 給油中、燃料タンク内に雪や水が入らないように注意してください。

## 運転前の点検

### エンジンオイルの給油

工場出荷時、エンジンオイルは入っていません。  
下記要領で給油してください。

1

エンジンオイルを準備します。

推奨オイル	SAE 5W-30
オイル容量	0.35L

2

本体を水平な場所に移動させます。

3

オイル給油キャップを取外し、オイルゲージを布などで拭取ります。

4

エンジンオイルを注入します。



エンジンテストを行っているため、多少オイルが残っている場合があります。オイルゲージを確認しながら少しずつ給油してください。

5

オイル給油キャップを取付けて一旦締付けた後、再度取外します。



6

オイルがオイルゲージのオイル量範囲（中央）まであるか点検します。



**7**

確認後、オイル給油キャップを確実に締めてください。

**8**

使用2回目以降は、運転前に必ずエンジンオイル量と汚れを点検してください。

# 運転前の点検

## 燃料の給油

工場出荷時、燃料は入っていません。  
下記要領で給油してください。

1

燃料を準備します。

使用燃料	無鉛レギュラーガソリン
燃料タンク	1.6L

2

燃料給油キャップを開け、燃料の液面を見ながら給油します。



## 運転前の点検

---

### ラバーオーガ、バッフルの点検

ラバーオーガやバッフルに凍結や曲がり・変形・欠け・摩耗がないかを点検します。



## 運転前の点検

### 除雪クラッチレバーの点検

エンジン始動後、除雪クラッチレバーを操作し、オーガが正常に「回転」・「停止」するか点検します。  
ワイヤの調整については、点検・整備の仕方の「除雪クラッチワイヤの調整」を参照ください。



**レバーを握る** オーガが回転します。※レバーを握っても回転しない場合は、ワイヤの調整が必要です。

**レバーを放す** オーガが停止します。※レバーを放しても停止しない場合は、ワイヤの調整が必要です。



警告

除雪クラッチレバー（デッドマンクラッチ機構）を紐やクランプ等で固定することは、絶対に行わないでください。重大な事故に繋がります。



注意

レバーを握る際は、両手で行ってください。

### ●レバーを握っても回転しない

ワイヤフックをリングから一旦取外し、1 つ上のリングに付替えます。



## ●レバーを放しても停止しない

ワイヤフックをリングから一旦取外し、1 つ下のリングに付替えます。



## 運転前の点検

---

### シュータの点検

シュータデフレクタのノブナットとシュータレバーを操作し、不具合がないか点検します。



## 運転前の点検

---

### 各部の緩みやガタツキの点検

各部の緩みやガタツキがないか点検します。  
ボルト、ナット等の緩みであれば締付けます。  
不具合の箇所が分からない場合は、お買い求めの販売店にご相談ください。



不具合があったまま使用しないでください。重大な事故に繋がります。

## 運転前の点検

---

### 各部の異音の点検

エンジン始動後、エンジン、その他の部位から異音がないか点検します。異常がある場合は、お買い求めの販売店にご相談ください。



異常がある状態で使用しないでください。重大な事故に繋がります。

## 運転前の点検

---

### 排気状態の点検

エンジン始動後、排気に異常がないか点検します。異常がある場合は、お買い求めの販売店にご相談ください。



異常がある状態で使用しないでください。重大な事故に繋がります。

## 運転前の点検

---

### グリス・潤滑油の塗布

本機の使用後は回転部分・撹動部を清掃し、グリス潤滑油を塗布します。  
※グリスは市販のリチウムグリスをお使いください。

# 運転操作の仕方

## 運転操作の仕方



- 燃料の臭いがする場合、運転しないでください。爆発の危険があります。
- しめきった室内や換気の悪い場所ではエンジンをかけないでください。一酸化炭素中毒による死亡事故の恐れがあります。
- エンジンの排気ガスには人体に有毒な成分が含まれています。特に一酸化炭素は無色無臭で非常に強い毒性があり、吸入すると死亡の恐れがあります。
- 燃料が漏れたり、こぼれたままエンジンをかけないでください。
- 運転時、給油時は喫煙など火気を発生させないでください。
- エンジン回転中及び停止後しばらくの間はエンジンやマフラーなどが熱くなっています。やけどをすることがありますので注意してください。
- 運転中に回転部及び可動部に手足や衣類を絶対に近づけないでください。触れると巻き込まれ重大な事故の恐れがあります。
- 周囲の動植物等に排気ガスが当たらないように注意をしてください。

# 運転操作の仕方

## エンジンのかけ方

1

緊急停止キー（セーフティーキー）を奥まで挿込みます。



注意

緊急停止キー（セーフティーキー）は、奥まで確実に挿入してください。  
確実に挿入されていないとエンジンは始動しません。



**必ず行ってください！**

緊急停止キー（セーフティーキー）の穴に紐を取付け、除雪作業の邪魔にならない長さでベルト等に結び付けます。万が一の転倒などの際に、緊急停止キー（セーフティーキー）が抜け、エンジンを停止させます。



2

外気温が氷点下の場合、燃料ポンプを2~3回軽く抵抗を感じる程度まで押します。



注意

押しすぎるとエンジンが始動しません。

3

チョークレバーをチョークマーク $\swarrow$ にします。



4

リコイルスターターを少し重くなるまでゆっくり引き、そこから真っすぐ引張ります。エンジンがかかるまで、数回繰り返します。



 注意

- ・リコイルスターターロープを最後まで引出さないでください。
- ・一度に6回以上は引張らないでください。
- ・引いたリコイルスターターは途中で放さずに、ゆっくり戻してください。
- ・運転中はリコイルスターターハンドルに手を触れないでください。また、除雪クラッチレバーを握りながら引張らないでください。

5

エンジンがかかったら、チョークレバーをチョークマーク $\uparrow$ に戻します。



6

リコイルスターターを引いた時に、そのままエンジンがかかった時も、チョークレバーをチョークマーク $\uparrow$ に戻します。



エンジン始動後は、チョークレバーを必ずチョークマーク||↑に戻してください。

# 運転操作の仕方

## エンジンの止め方

1

除雪クラッチレバーから手を放します。



2

緊急停止キー（セーフティーキー）を少し引くか、引抜きます。



# 運転操作の仕方

## 除雪作業の仕方



- シュータを人や自動車、建物に向けないでください。
- ラバーオーガに異物が巻付いたときは、エンジンをすぐに停止し、異物を取除いてください。
- 除雪機を点検し、破損が確認された場合は完全に修理してからご使用ください。

### 1

シュータハンドルを操作し、投雪方向を調整します。



### 2

シュータデфлекタのノブナットを操作し、投雪距離を調整します。



### 3

除雪クラッチレバーをゆっくり握るとオーガが回転します。



除雪クラッチレバー（デッドマンクラッチ機構）を紐やクランプ等で固定することは絶対にやめてください。  
重大な事故に繋がります。



## ワンポイント

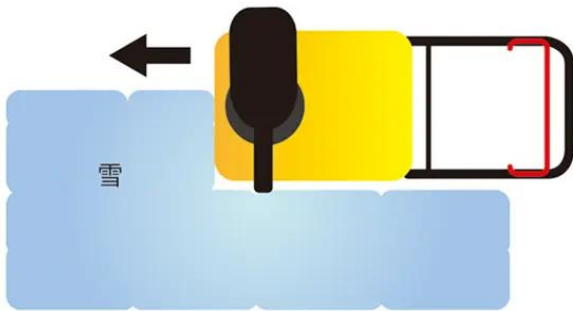
除雪作業は、人が歩く速度より「ゆっくり」行るのがコツです。  
走行速度が速すぎると、雪が詰まってしまう投雪できなくなることがあります。

①詰まりそうになったら一旦後進してから再度前進させます。これを繰り返すことで、詰まりを防ぐことができます。

②本機は水平に置いた時にラバーオーガが接地する設計になっています。1~2cm程度前に傾け、路面にラバーオーガを押し当てながら作業すると、よりスムーズに除雪できます。



③雪幅を狭くすると、除雪しやすくなります。



# 運転操作の仕方

---

## 除雪作業の停止

1

運転操作の仕方「エンジンの止め方」の要領で停止をします。

2

作業終了後は、本体に付着した雪を取除き拭取ってください。



- ・ 雪や水分が付着したままにすると、凍結やサビが発生し、故障の原因になります。
- ・ 除雪作業終了後は、雨ざらしせず、必ず屋内に保管してください。屋外に置くと、凍結や劣化によって故障したり、寿命が短くなったりする恐れがあります。

## 運転操作の仕方

### シュータに雪が詰まった場合



- ・ シュータに詰まった雪を除去するときは、エンジンを停止し、ラバーオーガの回転が止まってから雪かき棒で雪を取除いてください。
- ・ エンジンが回っているときは、シュータに手を絶対に入れないでください。怪我をする恐れがあります。



1

エンジンを停止させ、ラバーオーガの回転が完全に停止したことを確認します。

2

シュータ内に詰まった雪を雪かき棒で取除きます。  
※詰まったまま使用すると、ベルトが伸びたり切れたりする可能性があります。

# 運転操作の仕方

---

## 移動の仕方

1

除雪クラッチレバーから手を放します。

2

ハンドルを押し下げ、本体前側を浮かせた状態にします。

3

そのまま手押しします。



# 点検・整備の仕方

## 点検・整備の仕方

いつまでも安全にお使いいただくために定期点検を行ってください。

### 除雪期前

- ▼シーズン前点検
  - ・エンジンオイルの交換（点検・整備の仕方「エンジンオイルの点検・交換」）
  - ・点火プラグの交換（点検・整備の仕方「点火プラグの点検・整備」）
  - ・ベルトの点検（点検・整備の仕方「オーガベルトの交換」）

### 除雪期

- ▼初回20時間点検
  - ・エンジンオイル交換（点検・整備の仕方「エンジンオイルの点検・交換」）
- ▼運転前点検
  - ・エンジンオイルの点検・補充（運転前の点検「エンジンオイルの給油」）
  - ・燃料の点検・補充（運転前の点検「燃料の給油」）
  - ・ラバーオーガ、バッフルの点検（運転前の点検「ラバーオーガ、バッフルの点検」、点検・整備の仕方「バッフルの点検・交換」「ラバーオーガの点検・交換」）
  - ・除雪クラッチの点検（運転前の点検「除雪クラッチレバーの点検」）
  - ・シュータの点検（運転前の点検「シュータの点検」）
  - ・各部の緩みやガタツキの点検（運転前の点検「各部の緩みやガタツキの点検」、点検・整備の仕方「各部の緩みやガタツキの点検」）
  - ・各部の異音の点検（運転前の点検「各部の異音の点検」、点検・整備の仕方「各部の異音の点検」）
  - ・排気状態の点検（運転前の点検「排気状態の点検」、点検・整備の仕方「排気状態の点検」）
  - ・グリス・潤滑剤の塗布（運転前の点検「グリス・潤滑油の塗布」）

### 除雪期後

- ▼シーズン後点検
  - ・燃料の抜き取り（点検・整備の仕方「燃料の抜き取り」）
  - ・バッフル点検・交換（運転前の点検「ラバーオーガ、バッフルの点検」）
  - ・ラバーオーガの点検・交換（点検・整備の仕方「ラバーオーガの点検・交換」）
  - ・各部グリス・潤滑油の塗布（点検・整備の仕方「グリス・潤滑油の塗布」）

## 点検時期の目安

対象部品	点検項目	運転前の点検	初回の1ヵ月後または20時間運転後	3ヵ月毎または50時間運転毎	6ヵ月毎または100時間運転毎	1年毎または300時間運転毎
燃料	ガソリン量、漏れ	●				
エンジンオイル	オイル量	●				
	交換		●	●		
点火プラグ	清掃				●	
	交換					●



警告

- ・安全を確保し作業を行ってください。
- ・作業中にエンジンを始動するようなことは絶対にやめてください。また周囲に子供や動物が近づかないよう配慮をお願いします。
- ・エンジン回転中及び停止後しばらくの間はエンジンやマフラーなどが熱くなっています。
- ・触れるとやけどをすることがありますので注意してください。



注意

- ・作業には工具を使用することがあります。必ず用途やサイズの合ったものを使用し自身や周囲の確認をしながら安全に作業を行ってください。

・メンテナンス終了後はカバーなどをかぶせるか、汚れが付着しない場所に保管してください。

# 点検・整備の仕方

## エンジンオイルの点検・交換

### 【エンジンオイルの交換】

初回20時間、以降50時間毎にエンジンが冷えた状態で行ってください。

#### ■エンジンオイル交換の手順

1

廃油受けを準備し、車体を水平な場所に移動させます。廃油受けを本体下に置きます。

2

オイル給油キャップを緩めます。

3

オイル給油キャップの右下のドレンボルトを、10mmのラチェットレンチ等で反時計回りに回し緩めるとオイルが出てきます。



4

排出が終わりましたら、ドレンボルトを確実に締めます。

5

市販のオイルチェンジャーで抜くこともできます。  
※操作方法は、オイルチェンジャーの取扱説明書に従ってください。



6

市販のオイルジョッキを用意します。



## 7

新しいエンジンオイルをレベルゲージの中央までゆっくり少しずつ入れます。



## 8

オイルが、オイルゲージのオイル量範囲（中央）まであるか点検します。



推奨オイル	推奨オイルSAE 5W-30
オイル容量	0.35L

## 9

給油後は、オイル給油キャップを確実に閉めてください。

## 点検・整備の仕方

### 燃料の抜取り

1

燃料タンクのキャップを取外し、燃料を手動のポンプ等で抜きます。

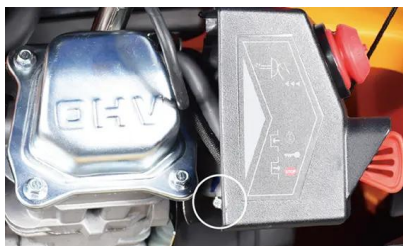


2

燃料を受ける容器を用意します。

3

○部分のネジを緩めることで、キャブレターの燃料を抜くことができます。



4

燃料を抜き終わったら、緩めたネジは、必ずしっかり締めてください。

# 点検・整備の仕方

## 点火プラグの点検・整備

点火プラグを取外し、電極の点検・清掃を行います。

※エンジンが冷えている状態で行ってください。

■使用工具：プラグレンチ（付属）、ワイヤブラシ

### ■点検・清掃の仕方

1

緊急停止キー（セーフティーキー）を抜きます。

2

8mmのスパンでマフラーカバーの4カ所のボルトを取外し、カバーを取外します。



3

金属の点火プラグキャップを持って引抜きます。※コードを持って引抜かないでください。



4

点火プラグをプラグレンチで反時計回りに取り外します。



5

点火プラグをワイヤブラシで清掃します。



交換時期	250時間運転毎
適応 点火プラグ	BPR7HS(NGK) 標準
	BPR5HS(NGK) 寒冷地向け
	BPR6HS(NGK) 寒冷地向け

## 6

プラグキャップに点火プラグを取付けます。



## 7

緊急停止キー（セーフティーキー）を挿込み、点火プラグ先端を金属部分に接触させ、リコイルスターターを引張ります。この時先端から火花が出れば正常です。



## 8

取外しと逆の手順で取付けます。

# 点検・整備の仕方

## オーガベルトの交換

1

5カ所のボルトを取外し、ベルトカバーを取外します。  
本体カバーのA部分を少し広げると抜けやすくなります。  
※必要以上に力を入れると破損の原因になりますので注意してください。



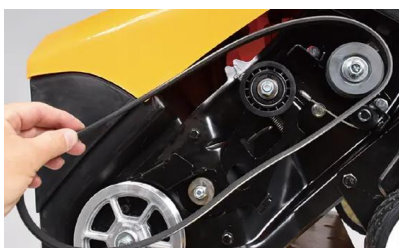
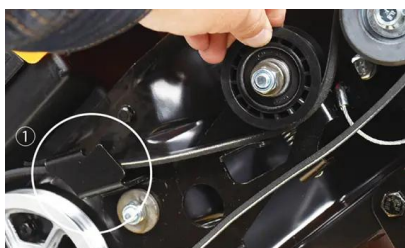
2

ラバーオーガを回しながら、ベルト下側を外側に引張ると外れていきます。



3

中央のプーリーを押すことで、①のベルト外れ留め部分が動き、ベルトが外しやすくなります。



4

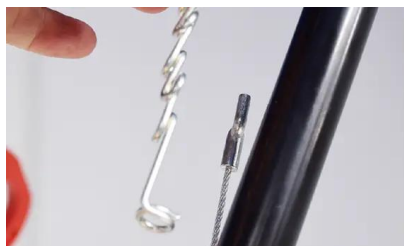
ベルトを取外し、新しいベルトと交換します。  
ベルトの取付けは、取外しと逆の手順で行います。

## 点検・整備の仕方

### 除雪クラッチワイヤの交換

1

除雪クラッチワイヤのフックを取外します。



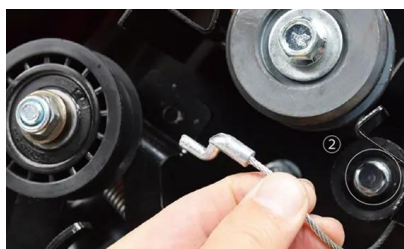
2

点検・整備の仕方の「オーガベルトの交換」要領でベルトカバー、ベルトを取外してから行います。  
①のワイヤ先端のフックを取外します。



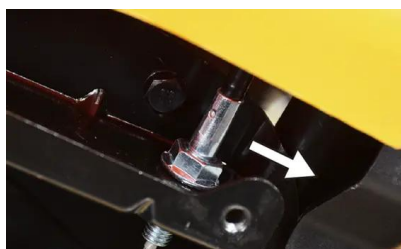
3

フックを取外したら、②のワイヤ外れ留めのボルトを10mmのスパナで取外します。



4

13mmのスパナでナットを緩めワイヤをステーから取外します。



5

プラスドライバーでワイヤ留めを取外します。



**6**

ワイヤを取外し、新しい除雪クラッチワイヤと交換します。

**7**

除雪クラッチワイヤの取付けは、取外しと逆の手順で行います。

## 点検・整備の仕方

### 除雪クラッチワイヤの調整

**レバーを握っても回転しない** 除雪クラッチワイヤが緩いので、ワイヤの張りを調整します。

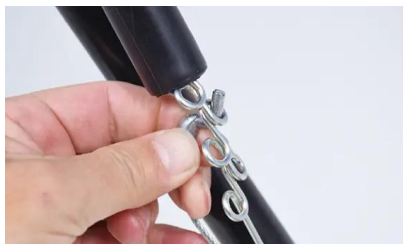
**1**

除雪クラッチワイヤ先端フックを外します。



**2**

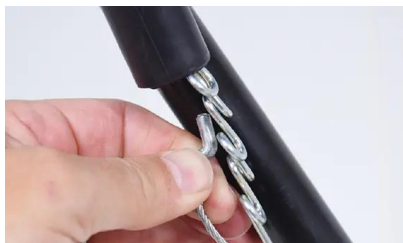
ワイヤ先端フックを取外した穴より一つ上の穴に通します。



**レバーを放しても回転が止まらない** 除雪クラッチワイヤが張りすぎているので、ワイヤの張りを調整します。

**1**

除雪クラッチワイヤ先端フックを取外します。



**2**

ワイヤ先端フックを、取外した穴より一つ下の穴に通します。



## 点検・整備の仕方

### バッフルの点検・交換

バッフル部分に摩耗、破損や変形がないか確認し、損傷が激しい場合は交換をします。



### ■交換手順

1

バッフルを取付けている3カ所のボルトを4mmの六角レンチで緩め取外します。



2

新しいバッフルを準備します。  
3カ所のボルトを4mmの六角レンチでしっかり締め、バッフルを固定します。

## 点検・整備の仕方

### ラバーオーガの点検・交換

ラバーオーガ部分に摩耗、破損や変形がないか確認し、損傷が激しい場合は交換をします。



#### ■交換手順

1

オーガスタンドに、2枚のラバーオーガがボルトで取付けられています。ラバーオーガを取付けているボルトの頭を4mmの六角レンチで押さえながら、ナットを10mmスパナで取外します。同じ要領で他のボルト、ナットも取外し、ラバーオーガを取外します。



2

新しいラバーオーガを準備します。ラバーオーガの平らな面が表、三角の溝がある側が裏になります。オーガスタンドにラバーオーガの表が上になるようにのせ、ボルトを通し、六角レンチで回転を止めながら、裏からナットをしっかりと締めます。他の取付け位置も同様にしっかりと締めます。

## 点検・整備の仕方

---

### 各部の緩みやガタツキの点検

各部の緩みやガタツキがないか点検します。  
ボルト、ナット等の緩みであれば締付けます。  
不具合の箇所が分からない場合は、お買い求めの販売店にご相談ください。



不具合があったまま使用しないでください。重大な事故に繋がります。

## 点検・整備の仕方

---

### 各部の異音の点検

エンジン始動後、エンジン、その他の部位から異音がないか点検します。異常がある場合は、お買い求めの販売店にご相談ください。



異常がある状態で使用しないでください。重大な事故に繋がります。

## 点検・整備の仕方

---

### 排気状態の点検

エンジン始動後、排気に異常がないか点検します。異常がある場合は、お買い求めの販売店にご相談ください。



異常がある状態で使用しないでください。重大な事故に繋がります。

## 点検・整備の仕方

---

### グリス・潤滑油の塗布

本機の使用後は回転部分・撻動部を清掃し、グリス潤滑油を塗布します。  
※グリスは市販のリチウムグリスをお使いください。

## 長期間使用しない時

---

除雪機を長期に渡り使用しないときは、次のお手入れを行ってください。

**1**

保管するときは、平坦で堅い地面に水平に置いてください。

**2**

保管するときは、オーガハウジングを接地させてください。

**3**

燃料タンク、キャブレターの燃料を抜きます。（点検・整備の仕方「燃料の抜取り」参照）

**4**

エンジンをかけ、燃料切れで停止するまで回し、キャブレター内の燃料を使い切ります。

**5**

緊急停止キー（セーフティーキー）を抜いてください。

**6**

各部の汚れを落とし、水分が残らないよう、きれいに清掃します。

**7**

各部のボルト類の破損、腐食、緩みを点検します。

**8**

防錆、潤滑油を塗布します。

**9**

本体にカバーをかけ、湿気が少なく換気の良い場所に保管してください。

## 困った時の対処法

### ●エンジン関連

症状	原因	対処
点火プラグに火花が出ていない	始動スイッチボタンの不良	交換
	点火プラグ不良	交換（点検・整備の仕方「点火プラグの点検・整備」参照）
	点火プラグ・キャップ接続不良	確実に接続
キャブレターに燃料が来ていない	燃料が入っていない	燃料を入れる（運転前の点検「燃料の給油」参照）
	燃料コックが閉じている	コックを開く
	燃料ホースの詰まり、漏れ	ホースの清掃、交換
	燃料タンクの錆びまたは、異物混入による詰まり	交換、フィルタ清掃
キャブレターに燃料は来ているが、エンジン内に燃料が来ていない	キャブレター詰まり（ニードル・バルブ固着）	キャブレター分解掃除
エンジンがかからない	エンジンオイルの入れすぎ	オイル交換（点検・整備の仕方「エンジンオイルの点検・交換」参照）
	エンジンオイルにガソリンが混ざっている	オイル交換（点検・整備の仕方「エンジンオイルの点検・交換」参照）
	緊急停止キー（セーフティーキー）が奥まで入っていない	奥まで挿込む
白煙が出る	エンジンオイルの入れすぎ	オイルを抜く（点検・整備の仕方「エンジンオイルの点検・交換」参照）
	エアフィルタの汚れ	交換、フィルタ清掃

### ●除雪作業関連

症状	原因	対処
シュータから雪が出ない	シュータに雪が詰まっている	詰まった雪を取除く
	雪質が重い	少しずつ除雪をする
雪を集められない	オーガに雪が付着している	付着した雪を取除く
オーガが回転しない	オーガベルトが切れている	ベルトの交換（点検・整備の仕方「オーガベルトの交換」参照）
	オーガに異物（石）が挟まっている	エンジンを停止して、オーガハウジング内部に異物がないか確認する
雪の飛びが悪い	エンジンの負荷が高い	手押し速度を下げる

## 消耗品・部品一覧

商品名	商品コード	
パッフル	hg-k8718n-P093	
ゴムオーガー	std8718-049n	
オーガベルト	hg-k8718n-P075	
オーガワイヤ	hg-k8718n-P008	
シュータハンドル	hg-k8718n-P044	
シュータキャップ	hg-k8718n-P026	
シュータキャップ固定ノブナット	hg-k8718n-P024	
キャブレター	hg-k8718n-P101	

使用することで消耗する部品または劣化する部品は全て保証適用外となります。  
 ゴムを使用する部品、皮を使用する部品、樹脂を使用する部品、スポンジ類、紙類、パッキン類、ギア・ベアリング等の干渉する部品、ボルト、ナット、ヒューズ、モーターブラシ、チェーン、バルブ内部の部品、バネ、潤滑油、燃料、作動油、刃または先端部品、シャーピン等の緩衝部品、ワイヤ、バッテリー、点火プラグ等

★上記消耗品・部品をご注文の場合は、下記各サイトよりご注文ください。

本店サイト▶  
<https://www.haigeshop.net/>

楽天サイト▶  
<https://www.rakuten.co.jp/haige/>

ヤフーサイト▶  
<https://store.shopping.yahoo.co.jp/haige/>

※電話やFAX でのご注文は、誤発注・誤発送を回避するため、受付ておりません。  
 ご迷惑・ご不便をおかけしますが、ご理解・ご協力をお願いいたします。

# 保証内容について

2023.8 現在

本規約は、ハイガー（以下「弊社」とする）を経由して販売させていただいた該当商品に関して保証する内容を明記したものです。弊社商品には商品保証書等は同梱しておりません。お客様の購入履歴や保証情報は弊社にて管理・保管しておりますのでご安心ください。返送いただく場合商品を再梱包していただく必要がございますので、梱包材はお捨てにならないようお願いいたします。

## 1. 保証の期間

商品発送日（ご来店引取の場合ご来店日）から1年間といたします。業務用・営業用として使用される場合、保証期間は6ヵ月といたします。保証期間を超過しているものについては、保証の対象外となり有償対応となります。商品発送日より7日以内の初期不良にあたる場合、送料・手数料弊社負担にて対応いたします。

## 2. 保証の適用

- ・お買い上げいただいた弊社商品を構成する各部品に、材料または製造上の不具合が発生した場合、本規約に従い無料で修理いたします。（以下、この無料修理を「保証修理」とする）往復送料や出張修理を行った場合の出張料は、お客様のご負担となります。
- ・保証修理は、部品の交換あるいは補修により行います。保証修理で取り外した部品は弊社の所有となります。
- ・本規約は、第一購入者のみに有効であり、譲渡することはできません。ご購入された年月日、販売店、商品、製造番号の特定ができない場合、保証が受けられない可能性があります。
- ・本規約の対象となる商品とは、日本国内で使用し故障した商品とします。日本国外に持ち出した時点で保証は無効となります。

## 3. 保証適用外の事項

- (1) 純正部品あるいは弊社が使用を認めている部品・油脂類以外の使用により生じた不具合
- (2) 保守整備の不備、保管上の不備により生じた不具合
- (3) 一般と異なる使用場所や使用方法、また酷使により生じた不具合
- (4) 取扱説明書と異なる使用方法により生じた不具合
- (5) 示された出力や時間の限度を超える使用により生じた不具合
- (6) 弊社が認めていない改造をされたもの
- (7) 地震、台風、水害等の天災により生じたもの
- (8) 注意を怠った結果に起きたもの
- (9) 薬品、雨、雹、氷、石、塩分等による外から受ける要因によるもの
- (10) 使用で生じる消耗や時間の経過で変化する現象（退色、塗装割れ、傷、腐食、錆、樹脂部品の破損や劣化等）
- (11) 機能上影響のない感覚的な現象（音、振動、オイルのにじみ等）
- (12) 弊社または弊社が認めているサービス店以外にて修理をされた商品
- (13) 使用することで消耗する部品または劣化する部品（ゴムを使用する部品、皮を使用する部品、樹脂を使用する部品、スポンジ類、紙類、パッキン類、ギヤ・ベアリング等の干渉する部品、ボルト、ナット、ヒューズ、モーターブラジ、チェーン、バルブ内部の部品、パネ、潤滑油、燃料、作動油、刃または先端部品、クラッチ、シャープピン等の緩衝部品、ワイヤ、バッテリー、点火プラグ等）
- (14) 保証修理以外の、調整・清掃・点検・消耗部品交換作業等
- (15) 商品を使用できなかったことによる損失の補填（休業補償、商業損失の補償、盗難、紛失等）

## 4. 別扱いの保証

部品メーカーが個別に保証している部品については部品メーカーの保証が適用されます。

## 5. 保証修理の受け方

まずはお問い合わせフォームにて弊社へご連絡ください。  
またはお近くの修理協力店へご連絡してください。  
症状・使用状況を伺いし、お手持方法をご案内させていただきます。

## 6. 注意事項

- ・動作点検を行ってから出荷しておりますので、燃料やオイル、水分が残っていたり、多少の傷や汚れ等が付いている場合があります。
- ・部品の在庫がない場合、お取り寄せにお時間をいただくことがあります。
- ・仕様変更などにより同時交換部品が発生する可能性があります。
- ・仕様変更などによりアッセンブリーでの供給しかできない場合があります。
- ・生産終了品につきましては、部品供給次第で修理不可能な場合があります。
- ・無在庫転売者（送り先が毎回違う購入者）の場合、転売者より購入した商品の場合、保証は無効となります。また発覚次第転売者への措置を取らせていただきます。

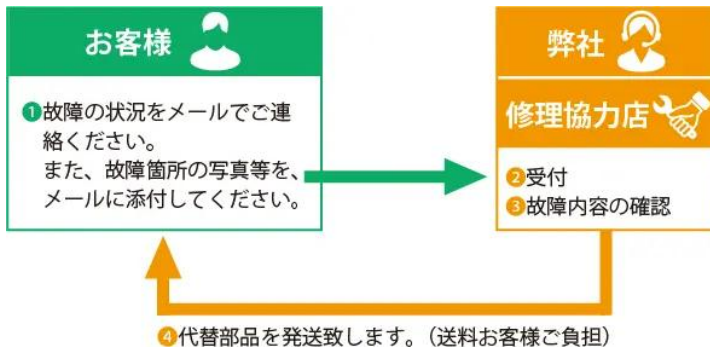
## ■アフターサービスについて■

1. 販売機種が対象となります。※弊社で商品をお買い上げの方に限らせていただいております。
2. 生産終了品につきましては、部品供給次第で修理不可能な場合があります。
3. 保証期間（1年間）を過ぎたものは、保証期間内におけるご使用回数に関係なく、すべて有償となります。
4. 修理の際の往復の送料はすべてお客様ご負担となります。
5. 修理協力店へご依頼の際は、直接修理協力店に修理代をお支払いください。

# お客様ご相談窓口

## 故障部品をお客様で交換される場合

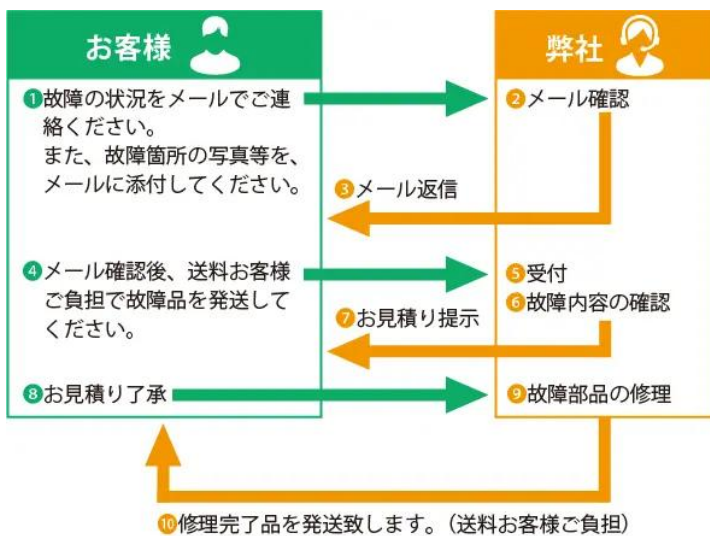
弊社にメールにてご連絡頂くかお近くの修理協力店にご連絡ください。  
保証期間内は消耗品を除き、壊れた部品は弊社で保証致します。  
その際に生じる**往復の送料は全てお客様のご負担**となります。



## 故障部品を弊社で修理する場合

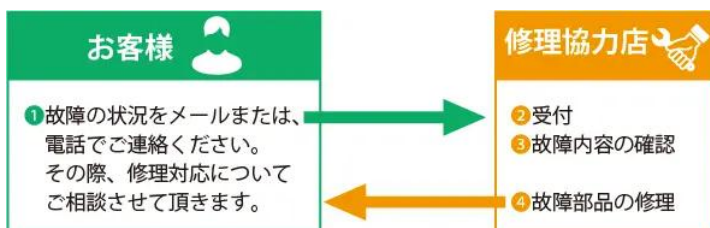
弊社にご連絡ください。  
保証期間内は消耗品を除き、壊れた部品は弊社で保証致します。  
その際に生じる**往復の送料、また修理工賃は全てお客様のご負担**となります。

修理依頼されるときは、メールにて下記事項をご連絡ください。  
・ご注文番号・商品名・商品の型番・故障の状況・購入サイト・購入年月日・お名前・ご住所・電話番号



## 故障部品を修理協力店で修理する場合

お近くの修理協力店にご連絡ください。  
保証期間内は消耗品を除き、壊れた部品は弊社で保証致します。  
その際に生じる**往復の送料、また修理工賃は全てお客様のご負担**となります。  
遠方の場合の出張修理や引取り修理は、別途料金が発生致します。



■保証適用について■  
まず、ご購入された店舗にご連絡をしてください。

保証期間内は消耗品を除き、壊れた部品は弊社で保証致します。  
その際に生じる往復の送料は全てお客様のご負担となります。

- ・本商品が対象となります。
- ※ただし、以下の場合は保証適用外となります。
- ・お客様のメンテナンス・確認不足等によるもの。
- ・人為的による破損等。
- ・運送会社など、第三者により生じた支障。
- ・弊社が故意・過失・他、正常のご使用に反して生じたと判断する全ての支障。

#### ■初期不良について■

- ・初期不良期間は、ご使用回数に関係なく商品発送日より7日以内とさせていただきます。
- ・商品受領後、1週間以内にご連絡ください。
- ※無償修理又は無償交換のいずれかを弊社判断にて、ご対応させていただきます。
- ・修理協力店にご依頼の際は、修理工賃・部品代・送料は当社が負担させていただきます。

#### ■消耗品について■

- ・消耗品につきましては、初期不良以外はすべて有償となります。

#### ■保証期間について■

◎詳細は「保証内容について」ページをご確認ください。

- ・商品が出荷された日・お渡し（ご来店時）から1年間となります。業務用として使用される場合、保証期間は6ヶ月といたします。

## 修理、部品に関するご相談

修理依頼される時は、下記を事項ご連絡ください。

- ①ご注文番号
- ②商品名
- ③商品の型番
- ④故障の状況
- ⑤購入サイト、年月日
- ⑥お名前
- ⑦ご住所
- ⑧電話番号

## 修理、使い方などのご連絡窓口

お手数ですが、今一度本取扱説明書を熟読し、弊社のサイトや動画等を見ていただき、問題が解決しない場合は、下記までお問い合わせください。

修理やご相談は本社カスタマー・サポート・センターまでお願い致します。

受付は年中無休ですが、メールのご返信は平日のみとなります。  
また、内容によってはお調べするのに数日要する場合があります。  
ご了承ください。

本社カスタマー・サポート・センター→<https://haige.jp/c/>

## 修理協力店

---

修理店により修理対応機械が異なりますので、最新情報は下記サイトをご覧ください。

本店サイト▶

<https://www.haigeshop.net/html/page3.html>

楽天サイト▶

<https://www.rakuten.ne.jp/gold/haige/support/repair/shop/>

ヤフーサイト▶

<https://shopping.geocities.jp/haige/after.html>

## カスタマー・サポート

---

「製品のお困り事」は、カスタマー・サポート・センターへ。  
製品が利用できない、「故障かな?」、「修理をしたい」、「パーツを購入したい」など、下記カスタマー・サポート・センターへ、お問い合わせください。

カスタマー・サポート・センターお問い合わせ窓口▶

<https://haige.jp/c/>

